

# FLORE21 ホットニュース

## 会長 小池潔のあれこれコラム

「高値が続く・・・」

連日、花の相場が驚くほどの高値を続けている。自分も経験をしたこともない相場がこの先も続きそうだ。

この高値は1年半も続くコロナ渦の中でウエディングや葬儀が決定的な打撃を受けて花の消費が落ちたことが大きく影響していると思われる。

この数か月、花の生産をやめた、縮小したとの声が我々にも届いていた。生産者にとって生産を続けられない安値が続いた花も少なくなかった。

この高値相場は彼岸が終われば元に戻るという単純なものではないと思われる。仲卸の我々も様々な変化が求められている。

作り手が再生産できる価格と時代が求めている花を生産すること、我々はこの二つにも一定の責任を負っている。

この彼岸の花の相場ほどでもなくても12月まで高値が続くと考えられる。

この1年半は私たちの力量、多様性、柔軟性が求められてきた。

時が我々にそのことを求めている。

## OFLOの部屋

各地で稲刈りが始まっている様で、日本の秋だなあとしみじみします。  
本日は中庄農園さんの花材紹介です。



好きなイネ科、「ミューレンベルキア」。  
美しいピンク紫の穂が可愛いです。

話は飛びますが、コロナが落ち着いたら韓国の  
ミューレンベルキア畑に行きたいです！



「穂先ナナカマド」。

霧田気からも優しくしなやかな葉が重宝しそうです。

青空が似合う「ブルーセージ」。

秋の様々な花束に使いたいです



葉色が秋からの季節を感じさせる  
「タイサンボク」。

実の存在感も素敵です。

中庄農園さんといえばユーカリ。

ポポラス、ニッコリー、マルバユーカリなどなど圧巻！



ではまたオオタフローレ小林。

# 世田谷店おすすめ

こんにちは。世田谷店の稲葉です。

円形状で風の通りにくい世田谷店の現場にも時折涼しい風が吹くようになってきました。

そろそろ秋ですね。

秋と言えば**苔のシーズン**です。。！

コケは春と秋に孢子体をつけるものが多く、子孫を残す大切な季節。

これはルーペ片手にお出かけしたい！ところですが、お出かけも自粛のこのご時世ですので、今回はコケについてかかれた書籍をもとに「秋のコケ散策ツアー」といきましょう！

さて、これを書くにあたってまず感じたことは、「日本人は苔が好き」やなということです。

コケ好きのための著書が多いからなのか、またはコケ好きの人には古風な人が多いからなのか、コケについて書かれた書籍の冒頭には、コケの歴史とともに、それについて詠まれた古歌が紹介されていることがしばしばあります。

昔の人は四季おりおりのコケにいろいろな気持ちを重ねて歌を詠んだわけです。

おもしろいので一つ紹介してみます。

「奥山の石に蘿む恐けど

思ふ情をいかにかもせむ」

(万葉集より 作者不詳)

「奥山のこけが生えた岩が神々しく恐れ多いように、近寄りがたい高貴な人であるが、その人を想う心はどうすることもできない」の意味で、ここではコケのことを「高貴な人」と表しています。

このように昔の人はコケを「永遠・変わらぬ心・神聖・神々しさ・尊厳・静寂・高嶺の花」などを意味する言葉として使っていたそうです。

現代の人はそんな風にコケを見ていないような。。？

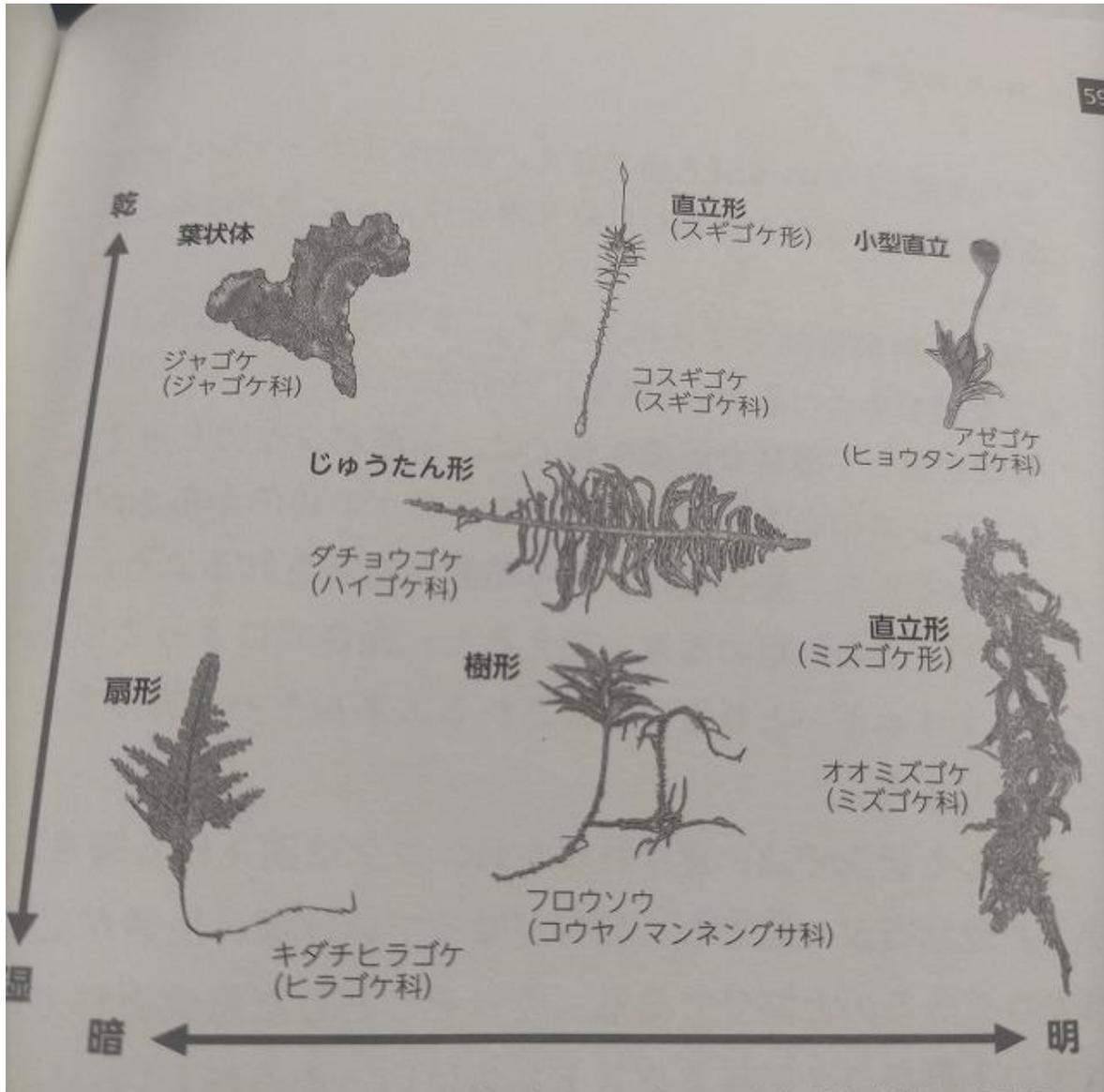
ロマンがありますよね。

これを聞いてから見るコケはまた違って見えてきそうです。

では本題、今日は全国にお出かけした気分で、ちょっとおもしろい形をしたコケをいくつか紹介したいと思います。

どの植物もそうですが、コケも自身の形を変えていくことで、様々な光、水環境に適応し、世界を広げています。

どれもとっても小さなミクロの世界。みなさんついてきてくださいね・・・！(笑



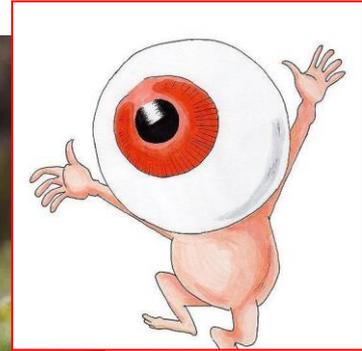
環境の湿度と明るさと、それぞれのコケの形の違いの分布図がわかりやすかったので載せときます。みなさんも気になるコケがでてきた時は、これを参考に分布場所を思い浮かべてみてください。

まずひとつめはセン類タマゴケ科の「**タマゴケ**」です。

これは多分、ちょっと前のホットニュースでも紹介したかと思います。

沖縄以外の低山～山地帯に広く分布していて、スナゴケに似た葉から目玉のような朔がのびてきます。明るい林の腐植土や、岩の隙間に生息しています。

タマゴケの朔と目玉のおやし



英名は朔を青リンゴに喩えて「Apple moss」というそうです。かわいい！

次はセン類 ハイゴケ科の「ダチョウゴケ」です。

これは私的ヒット！それぞれの茎が斜め上に伸びて密に羽状に分枝し、群生する姿が大変美しいです。

これは名前の通り、葉がダチョウの羽根に似ていることに由来しています。

分布は北・本・四の亜高山～高山帯下部です。属名は *Ptilium crista-castrense* これもギリシャ語の *Ptilon* (柔らかい羽毛) を語源としています。

外国の人も鳥の羽に見えたんですね。

コケは鳥に喩えられているものが多い気がします。



ダチョウゴケと  
ダチョウの羽根

そして、これも私のいちおし、セン類 スギゴケ科の「タケネスギゴケ」です！

北・本州の高山帯に生息するため、高山植物に似ています。

毛糸の帽子のような帽には毛が密生しています。

厳しい高地環境に適応するためにこんなかわいい姿になっちゃったわけです。

タカネスギゴケと毛糸の帽子



最後はセン類 ギボウシゴケ科の「ツリミギボウシゴケ」。

分布は本州中部の高山帯、ちょっとレア品種。

朔がギボシ(擬宝珠)に似ていて、擬宝珠とは、橋の柱の上にある栗のような形をした飾りのことです。そういわれると似てますね。全体の体のサイズに比してちょっと大きな朔がしなっとなついている姿が愛嬌感じます。



ツリミギボウシ  
ゴケと擬宝珠



ちなみに、お風呂の栓のチェーンにくっついてるのもギボシっていいますよね？  
こないだ実家で気づきました

お風呂のギボシ

今回は以上です！

まとまらなくなっちゃいそうなので簡単に終わりますが、今度のホットニュース当番までには、現地まで苔探索に行くぞー！！(苔友達、やっと見つかりました！！)

世田谷店 稲葉晴香

## 仕入れの素☆葛西店

9月も半ばまた気温も上がり汗ばむ陽気が戻ってきました  
先月、群馬まで用事があったので少し足を延ばしてしばし  
【上越高原国立公園 谷川岳】を空中散歩してきました



山の稜線を歩くのも気持ちいいですが花を愛でるのもトレッキングの醍醐味です

ロープウェイで1319mまで上がると山の上はもう秋の気配です

ガマズミの実が真っ赤に実って目を引き付けます

野イチゴの実も熟して真っ赤でした



ハクサンシャジン（白山沙参）

晩秋の高山にさくキキョウ科の花で和名は  
ツリガネニンジン

紫の花は癒されますね

イブキジャコウソウ  
日本原産のタイムの仲間です  
発色がきれいでした



オヤマリンドウ

茎の上部にしか花を咲かせないリンドウ  
秋の訪れを告げる花ですね

### ミヤマヒナウスユキソウ（雛薄雪草）

蛇紋岩の岩場に生える多年生草  
絶滅危惧植物に指定の希少な花です。  
葉には薄く毛が生え空気中の水分を頼りに自生しています



左からウツボグサ コガネギク ハクサンフクロウ



コウリンカ（左）

マツムシソウ（右）

